



茜の空

令和5年度 第2号
発行日 5月15日(月)
練馬区立石神井南中学校
校長 木原 賢三

日本の伝統と歴史を学ぶとは

校長 木原 賢三

爽やかな風が吹く季節となりました。新学年がスタートして早1か月、生徒たちは新しい学校生活にも慣れ、仲間とともに素晴らしい学年、学級づくりに向けて元気に学校生活を送っている姿が見られます。4月に行われた対面式や部活動紹介では、上級生が立派な姿を見せ、上級生が下級生の見本となる石神井南中の素晴らしい伝統を上級生が示してくれました。これからの石南中生の活躍が期待されます。ゴールデンウィークが終わり、いよいよ学習に、部活動に力を尽くす充実した時期を迎えます。生徒たちが石南中生らしく力を発揮できるよう教職員で応援していきます。

さて、5月8日から10日まで広島・京都修学旅行が行われました。「有終乃美～最後までしっかりやり通し、立派な結果を残すこと～」のスローガンのもと、生徒たちは中学校生活の集大成として、石神井南中生として自覚をもった行動し、石南中プライドを十分に発揮した素晴らしい修学旅行となりました。班行動や集団生活の中では、お互いに思いやりをもち、助け合い、協力する姿が見られ、一人ひとりが大きく成長することができ、思い出に残る素晴らしい修学旅行とすることができました。修学旅行で訪問した広島は世界で最初に原子爆弾が投下された都市であり、また、古都・京都は千年を超える時間を経た日本の伝統文化の良さや素晴らしさをもつ都市です。どちらの都市も世界文化遺産であり、現在を過去から引き継ぎ、未来へと伝えていかなければならない人類共通のかけがえのない宝物です。歴史を学ぶとは、過去の出来事をただ暗記することではなく、現代を考えること、そして、未知のものへの理解を深めることです。元宮城教育大学学長の林竹二さんは、「学ぶということは、絶えず自分をつくり変えていくことだ。」とされています。今回の修学旅行を通して、生徒たちが学んだ平和の尊さや生命の大切さ、そして、古都の歴史や伝統文化などが知識として習得するだけではなく、世界や歴史・伝統文化の見方や考え方を換え、自分の生き方を変える出会いとしてほしいと思います。さらに、平和な社会を実現しようとする心や伝統文化を継承する心を育むだけでなく、学んだ知識や感じたことを生かし、自ら進んで理解を深めるとともに、自分の行動を変えて社会で生かし、後世に伝えていくことができるようにしてほしいと願っています。

石神井南中では、教育目標に「自分と他者を共に認める人」「自ら学び、社会で生かせる人」を掲げています。様々な教育活動を通して、自分を理解するとともに、自分とは価値観が異なる他者についても違いを違いとして認めていくことが大切であることを学ばせていきます。そして、学んだことをただ理解に終わらせるのではなく、自分の世界の見方や考え方を換え、自分を成長させるとともに、社会に貢献することができる生徒を育成していきます。今後とも保護者の皆様のご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

【修学旅行】

5月8日より2泊3日で広島・京都修学旅行が行われました。本校では、1年生から平和学習に取り組み、その集大成として広島の平和広場において石南中平和宣言を発表しています。実行委員を中心としてこれまで平和学習で学んできたことを生かし、宣言をまとめました。当日は堂々と発表し、持続可能な平和な社会づくりに貢献することを誓いました。3年生の立派な姿に大きな成長を感じるとともに、石南中生を誇りに感じました。平和宣言後、原爆資料館の見学、被爆者の方のお話を聞き、改めて平和の尊さを実感するとともに、これから平和な社会づくりのために貢献していくことの大切さを痛感することができました。修学旅行の3日間、様々なことを学ぶことができ、大きく成長することができました。



練馬区立石神井南中学校第3学年平和宣言

1945年8月6日 午前8時15分

爆音とともに澄みきった青空が一瞬にして黒い雲に覆われ、約20万人もの命は無惨に散っていきました。原子爆弾によって失われたものはかけがえのない命だけではありません。生活や住み慣れた街、さらには人々の尊厳まで奪っていきました。このような悲惨な出来事を二度と繰り返さないために私たちにできることは、事実を深く知り、風化させないように後世に伝え続けていくことです。今を生きる者として、受け継がれた命を大切に、平和について考え、自ら平和をつくっていかねばならないのです。

今、日本にある平和な日常は当たり前ではありません。ロシアによるウクライナ侵攻、ミャンマーでの迫害、アフガニスタンのタリバンの復権、シリアの紛争などにより小さな子供や若者など多くの人々がなくなっています。戦争をなくし、日々の日常に感謝しながら、命や平和を大切にしたいです。日本だけでなく、世界中が笑顔であふれ、安心して暮らせることが本当の意味での平和だと思います。

戦争のない平和な世界を作るためには、各国との調和を図り、協力していかなければなりません。しかし、それぞれの国のルーツや文化の違いが生じて分かり合うことが難しい部分も多くあります。平和がよいと分かっているのに、平和な世界をつくることは簡単なことではないのです。そんな中でも、私たちにできることはあります。まずは、学校生活の中にある小さな争いごとをなくすこと、自分の言動をよく考え、よりよい学校生活を築いていくことです。その行動が、私たちが住む日本、そして、世界が平和になっていくことにつながっていくと思います。

私たち石神井南中学校3年生は、これからも平和について考え、平和な世の中をつくっていくことを誓います。

令和5年5月8日 練馬区立石神井南中学校 第3学年